

ふらっと行ける！

暮らしのなんでも相談「保健室」を作りたい

ワンストップ

NPO法人 四日市男女共同参画研究所

私たちNPO「四日市男女共同参画研究所」は

主に女性、高齢者の**困っている**声を集め、調査し、学習し、学習し、話し合い、そのまとめを市へ提言する活動を 2006年から続けています

「伝えたい通信」2024年3月号より

はもいあおレージ2024

●公開講座 ●
国立歴史民俗博物館企画展「性差の日本史」のお話
 講師：横山 百合子 (展示プロジェクト代表・国立歴史民俗博物館名誉教授)
 2020年秋、国立歴史民俗博物館で開催された、話題を呼んだ「性差の日本史」の展示をお話で再現します。
 日本の歴史の中で「男」「女」という区分はいつどのように生まれたのかジェンダー史の原点を探ります。
 日時：10月12日(土) 14:00~16:00
 場所：本町プラザ2階第1会議室

●第2回講座 ●
「三重の女性史づくり」と出会った「河井道」のお話
 講師：佐藤 ゆかり (三重の女性史研究会代表)
 2009年発行された「三重の女性史」づくりのお話と、その中で出会った「河井道」(伊勢山由曲、教育勅諭)の紹介
 日時：12月14日(土) 14:00~16:00
 場所：本町プラザ2階第1会議室

●第3回講座 ●
「日本女性史」の中力強き女性たち～私の本棚から
 講師：坂倉 加代子 (NPO法人四日市男女共同参画研究所代表理事)
 この講座①②にかかわる本を中心に日本史の中で埋もれている力強い女性たちの本を紹介
 日時：1月25日(土) 14:00~16:00
 場所：本町プラザ2階第1会議室

●公開講座 ●50名 2回・3回講座/30名
 申込費：無料 定員：公開講座/50名 2回・3回講座/30名
 申し込み・お問い合わせ：電話・ファクス・Eメールで、0724日祝日はお休みです
 TEL:059-854-8331 FAX:059-854-8330 E-mail:kyudomonkak@city.yokkaichi.mie.jp

『高齢者と住まい』……こんなところでこんな風に暮らしたい

アンケートまとめ+コメント

性別	30代	40代	50代	60代	70代	80代	その他
男	6	16	15	2	4	4	47
女	1	1	1	1	1	1	12
合計	7	17	16	3	5	5	59

●自宅派

年代	希望
30代 ~ 60代	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のペースで生活したい ・家族の顔を見て暮らしたい ・ペットがほしい ・車を乗るまで車を乗った ・夫と暮らしたい
70代	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなことをして暮らしたい ・近所まで自分の車で暮らしたい ・買い物(2人) ・趣味(2人) ・自分が専業主婦(3人) ・体が不自由になること ・公共交通機関の利用が不便 ・子どもが遠くに行かない ・孫がほしい ・主人のこと(お世しない、何も出来ない、私が死んだら) ・車いすがない ・閉居したい ・子どもは遠くに行き、帰って来ない(3人) ・車いす、車いすなしの車 ・特別ついていない(2人)
80代	<ul style="list-style-type: none"> ・便利なお店がある ・慣れた土地で暮らしたい ・友人、知人がいる ・子どもが近くに住んでほしい ・身体に負担が少なく暮らしたい ・今更な介護中、自分ひとりになったら ・近所への行きがたい ・安否確認(子どもが遠くに行く) ・夫婦2人で生活していて今は困ったことはない ・自宅前が道路に多いが、不便はない ・「家族の良善性」家の売却がなかなか100年代の相場に届かない ・何年も暮らした人を見て先に死なない心配もまだ存在している

●施設派

年代	希望
30代 ~ 60代	<ul style="list-style-type: none"> ・持ちが広い ・車庫がないと不便 ・車が自由に使える ・近所には自分だけで済ませたい ・プライベート空間がある(車庫) ・大きな風呂がある ・高がほしい ・旅行に行ける(外出自由) ・自分も働くことができる ・いろいろなこと(手芸など)ができる ・友人もつなげたい ・趣味が生活まで楽しめたい ・近所の人と交流できる(お手伝い) ・元気で生活できる(お手伝い) ・費用が安い ・車庫と車庫があるアパート
70代	<ul style="list-style-type: none"> ・車にも乗るのげなくない ・入居料を大事にする施設 ・プライベートの確保 ・車庫がほしい ・カルチャー施設がある ・高齢者の交流がある ・ひとりの暮らしとみなさんと暮らすところがある ・車庫やコンクリートに付いた自由がある ・車庫の確保がある ・車庫がほしい ・自然環境がいい ・自分ひとりで暮らすこと ・自分のことであること ・改修、取り壊しがあるアパート
80代	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活を確保したくない ・どうして施設になったかは生活が原因 ・みんなと楽しめるコミュニティがある ・少子化で生活が立ち回らない ・今更な介護が必要になる ・暮らしが楽になる ・バスがなくてもいい ・バスがなくてもいい ・施設も「やむを得ない」仕方ない ・施設に「住む」は「自由」 ・「住む」は「自由」 ・「住む」は「自由」 ・「住む」は「自由」

●新しい施設

- ・定期検診(身体、認知能力)
- ・身に合わせた介護(前記、後記)
- ・福祉体制
- ・コミュニティ(小規模にして近所にも)
- ・介護タクシー/タクシー補助
- ・施設の運営(費用削減補助金を)
- ・日常生活を送るための家事サポート補助(入浴サービス)
- ・24時間365日対応の訪問介護、医療、看護(在宅医療の充実)
- ・家族の外出先(子ども送迎)の安心
- ・近所の人と交流できる
- ・安心して入れる施設(無償でよく)
- ・費用が安い
- ・自治体と連携して手厚い介護
- ・利用できる施設があるように
- ・介護保険、健康保険の活用
- ・施設の経費を削減したい
- ・生活の手助けをしてくれるサービスがほしい
- ・移動補助がある
- ・安全なウォーキングできる散歩道
- ・ネットでも人と交流するシステム

●暮らし易い

- ・安全確認の徹底
- ・車、バス
- ・施設の経費を削減したい
- ・困ったときに助けを求めたい
- ・移動補助がある
- ・近所もみんな年をとっている
- ・見守り
- ・災害時の声かけ
- ・家族援助
- ・地域市民センター単一の施設
- ・自治会活動の充実
- ・老人会活動
- ・最後の「近所もみんな年をとっている」は現実あり

●こんなサービスがあったら

- ・旅行にいけない
- ・ゲームができる
- ・業務援助ができる
- ・スポーツジムのような体力づくりの場
- ・手仕事、手芸などづくりの場
- ・読書会、ストーリーテリング、麻雀
- ・ボードゲームなど楽しめる時間
- ・老人の生きがい(講座)
- ・自由出入りできる本人がやりたいことができる
- ・温泉(家族も利用)
- ・おしゃべり(3人)
- ・大人として対応してくれる
- ・おしゃべり、おしゃべりじやなく
- ・車いすにのれる
- ・少人数で家庭的なサービスの提供
- ・保育園と園庭 ゆるい遊び場
- ・坂道は歩ける、スポーツ、趣味など楽しめる
- ・施設が移転を希望している
- ・近所とするが字や編み物をさせてほしい
- ・援助を受けだけでなく自分も働く(3人)
- ・自治会活動の充実
- ・作業についていけないので不安

サービス経路、責任、シェアハウス、共同生活で住むなど

* 四日市市男女共同参画センター(はもりあ四日市)の 夜間開館運営委託事業の受託

* 必要に迫られ「せっぱつまった入用資金貸付バンク」 を 開設・運営しています



NPO活動をとおして

困りごとは 多様で そして 複雑

- * どこへ相談に行けばよいのやら
- * 市役所へはなんだか気後れして行きたくない
- * 介護の制度などの情報が届かず・・・

不安をいただいている人が多いことがわかりました

暮らしの何でも相談「保健室」とは

- * 誰でも無料で 予約なしで 健康や介護や暮らしの中でのさまざまな**困りごと**が相談できる所
- * 誰に相談したらいいのかわからないこと、病院へ行くほどではないけれど ちょっと気になることをじっくり聴いて一緒に考える人がいます
- * 相談したいことはないけれど 誰かと話をしたい時 一息つきたい時にも立ち寄れる所です



暮らしのなんでも相談「保健室」は



気軽に なんでも、
いくつでも相談ができ
適切な情報や 必要な社会資源を
提供します

「保健室」の場所は

- * おなじみのスーパー「イオン尾平」か「イオン泊」
または駅に近いアピタのいずれかで、
15㎡くらいの場所を提供していただければ！
- ◎ 「イオン尾平」「イオン泊」敷地内には
市バスの停留所が設けられています

- 
- * 運営は 私たちNPOが、関連するNPOやグループと連携して行います
 - * 相談員には 看護師、介護施設職員、市職員などのOBが 有償ボランティアとして当たります
 - * 当面は毎月2回(1日と15日)
年間20回(盆と正月は休み)

暮らしのなんでも相談「保健室」は

- * 行政、地域への課題提供の場
- * 市民と企業と行政の連携の場
- * かかわる専門職による 医療、介護、福祉の
研修・連携の場
になることを期待しています

暮らしのなんでも相談「保健室」は

- * 2011年 東京の新宿で
訪問看護師の秋山正子さんが開設
今では全国に35の保健室が出来ています

